

私が変わる。未来が変わる。

# ふくたん キャリア形成プログラム／就職支援プログラム

ふくたんの学びを通して、社会が求める人材を育成するために「ICE福短マトリックス」を用いて学修過程を振り返りながら個別面談を行います。学修過程を定期的に振り返ることにより、自己評価に役立て、不足しているところや課題を見つけ、一人ひとりの適性に応じた支援を行います。

## キャリア形成教育

入学時・進級時

「私」宣言  
具体的な個人目標を設定。



入学前教育  
入学までの期間を有意義に過ごすため、「入学前教育プログラム」に取り組んでもらいます。

## 地域課題解決力育成

学生自ら地域に出向き、在学中から地域の課題と向き合い、自主的な探究心やコミュニケーション力を磨き、課題解決していける力を育みます。

在学中

## 各学科ディプロマポリシー

専門科目

専門知識・技能を身につける

非認知能力を養うために

### 学修成果

学期ごとにどこまで学んだかを確認し、モチベーションの上では、非認知能力などテストの仕組みを構築しています。

めざす(育成)

する)人材像

社会で求められる資質・能力

## 非認知能力育成

物事に関する考え方や取り組み姿勢など、学力テストでは測れない、社会で求められている能力

重要視

### の可視化

を評価することで、学修成果向上につなげます。ふくたんでは測れない能力も可視化でき

総合科目

- 地域づくりかえ学
- 富山コミュニティー論 など

\*地域の課題を調査・分析し、地域課題の解決を目指す取り組みを行うことで、非認知能力の向上に取り組みます

ホスピタリティー  
クリエイティビティー  
の醸成

卒業時

＝



- GPA (成績評価値)
- 学修到達度評価
- 学生表彰

## 就職

### 高い在職率

長く働き続けられる

卒業後3年の在職率

74.1%

(2019年度卒業生)

職場で自らの役割を見つけ、周りからも認められているからこそ仕事を続けることができる

ふくたんの卒業後の在職率は、全産業での就職者と比較しても、医療・福祉分野の就職者で比較しても、下図のように全国平均を大きく上回っています。それは、ふくたん生が社会に必要とされ、活躍し続けていることを意味します。卒業生の活躍はふくたんの学びの成果の証明です。

### 短期大学等卒業後3年の在職率



※2022年 厚生労働省「新規学卒就職者の離職状況(平成31年3月卒業者)」参照

### 個別面談での振り返り

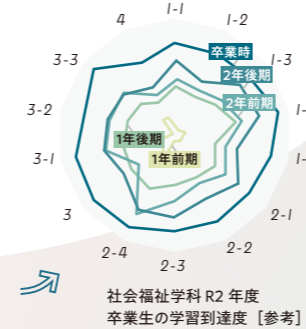
他者志向	自己志向	過去・現在志向	未来志向
<p>提案する・行動するために</p> <p>リーダーシップ</p> <p>協力する・参加する・チームワーク</p>	<p>新しい「私」をつくる</p> <p>「私」の経験をもとに考える</p>	<p>「ひと・こと・もの」に働きかける「私」になる</p> <p>自己・他者を理解しコミュニケーションする</p> <p>状況や関係を把握して考える</p>	<p>福祉・看護・教育に関わる専門性を発揮する</p> <p>福祉・看護・教育に関わり知識・技術を習得する</p> <p>もう一人の「私」を立ち上げ考える</p> <p>「私」宣言をつくる</p>
		知識・技術を学ぶ	知識・技術を関連づける
		I	C E

### ICE福短マトリックス

どのように学ぶか ICEモデル  
**I** Ideas(知識)・・・基礎・基本の習得  
**C** Connections(つながり)・・・関係・意味づくり  
**E** Extensions(応用)・・・探究と創造

### 学修到達度自己評価

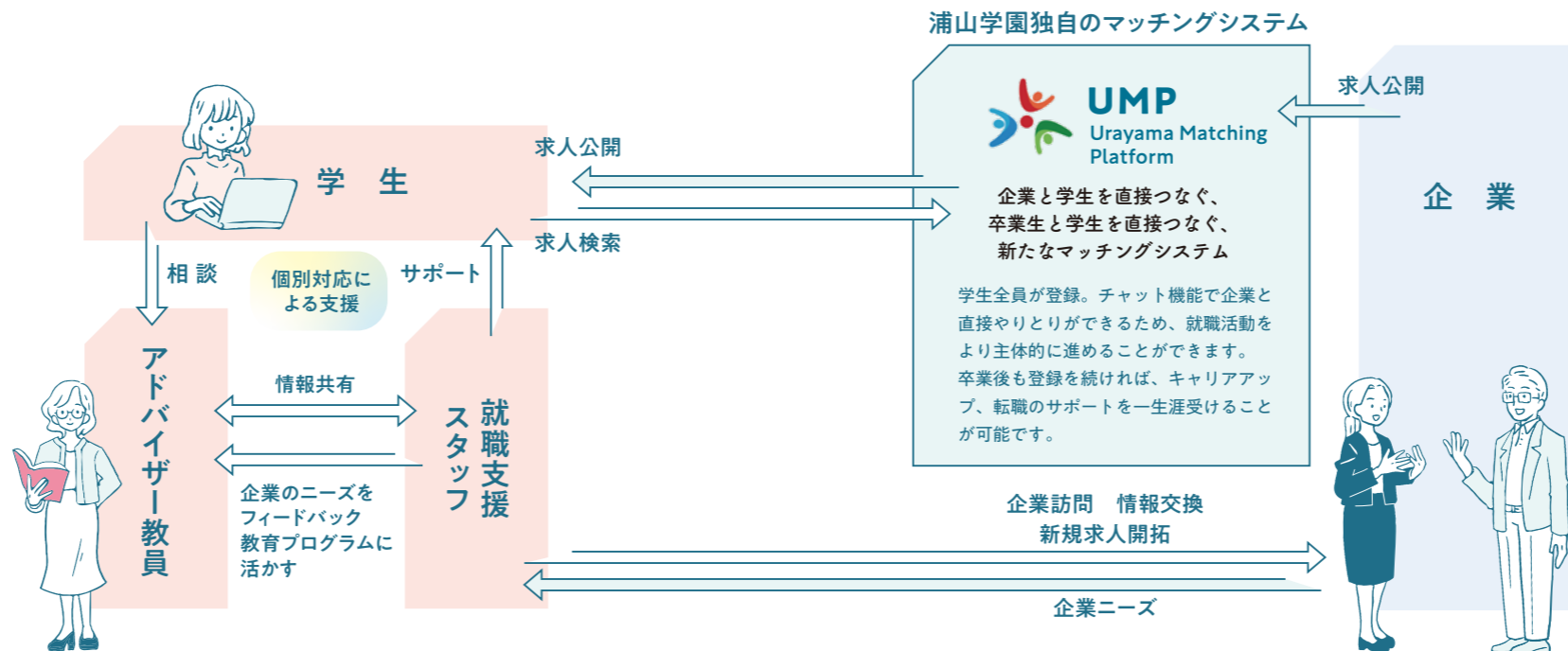
自身の成長・適性確認



ディプロマポリシーに基づき、学科ごとに設けられている「学修到達度自己評価基準」を用いて、学期ごとに自分の学びがどこまで到達しているのか学生自身が自己評価を行います。大学側は卒業時までには到達してほしい学びのレベルを領域ごとに5段階で評価し、その評価結果をレーダーチャートで表示します。卒業時には、全ての領域でレベル5に近づけるよう知識・技術・教養を高めます。

## 就職支援

毎年就職支援スタッフが就職先企業へニーズ調査を行い、企業が望む人材や能力を育成できるように授業の改善を行っています。また、学科ごとに就職ガイダンスや試験対策講座を実施し、学生たちが希望先へ就職・進学できるようにサポートします。

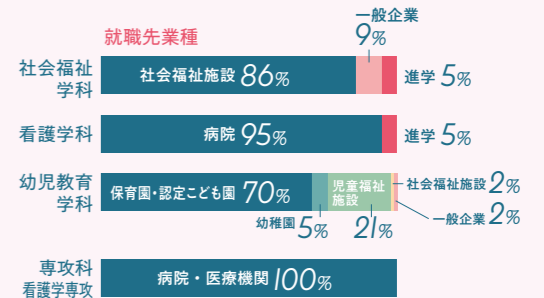


## 進路決定率

社会に必要とされている

97%

(2022年度卒業生 2023年3月1日現在)



卒業後の主な進路先・就職先

